



<掲載記事>

○巻頭言（所長あいさつ）

○平成25年度各部の主要な研究課題と概要

- ・栽培部
- ・品種開発部
- ・病虫害部

○トピックス

- ・ながいも優良種苗母本選抜検討会
- ・にんにく品質向上技術研修会
- ・もち小麦商品開発研究会
- ・にんにく高品質安定生産技術研修会
- ・人の動き

巻頭言（所長あいさつ）

生産現場のニーズに答える研究機関として

所長 岩瀬 利己

4月1日付けで野菜研究所長に任命されました岩瀬利己です。これまで、畑作園芸試験場時代から長期にわたり、野菜・畑作物の栽培技術、作型、品種の開発などの研究に携わって参りました。

農業を取り巻く情勢が激変しつつある中、青森県の強みである豊富な農林水産資源とそれを支える水・土などの恵まれた生産基盤、攻めの農林水産業を担う元気のある人財などが持つ潜在力を効率よく引き出すことが求められています。県は、「産業力強化」と「地域力強化」を車の両輪にたとえ、これを上手に進める事によって、農林水産業の「成長産業化」をめざすこととしています。

このような県の「攻めの農林水産業」推進方針に従い、生産現場からの要望を迅速・丁寧を受け止め、重要度や緊急性の高い課題に重点・集約化して、効率的に研究を進め、生産現場で必要な技術として取りまとめ、早期に普及を図りたいと考えています。

現在、県からの交付金による研究事業のほかに、県や国、企業等から様々な研究を受託し実施しています。今年は、第1期中期計画の目標達成と第2期の中期計画作成の区切りの年にあたりますので、気を引き締め研究の進行管理に努めます。

また、産業技術センターの1研究所として、生産者や関連団体・企業の皆様のニーズに応じて、共同研究、受託研究、依頼分析・試験・調査、技術相談・指導及び得られた成果の普及促進、また、各種研究会、講演会、研修会に参加し、技術情報の提供を行っています。当センターのホームページで紹介されている「農商工連携ファンド」、「6次産業化サポートセンター」などの相談窓口にもなっていますし、農林総合研究所ホームページで紹介されている、農家の方々が抱えている課題を、関係する研究所の研究者と生産者が一緒に解決する「農業ドクター」派遣制度という現場解決型研究も随時受け付けています。これらに限らず、お気軽に相談していただきたいと思います。

野菜研究所は、2009年に独法化して今年で5年目（第1期の最終年）を迎えました。青森県の気候風土に適した特産野菜の品種開発、栽培技術、病虫害の防除、土壌・施肥管理技術の開

発を主なミッションと考えています。研究ニーズの把握、研究成果の現場への普及には、農協・普及および行政の各機関との連携が不可欠であり、各種の会合の場を利用して連携を深めたいと考えています。

これまで以上に生産現場や関係機関の方々と連携しながら技術的な問題解決にあたり、生産者の経営安定化と所得向上を支援するために、職員一同とともに最大限の努力をして参りますので、どうぞ、野菜研究所に対して、皆様の一層のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

平成25年度各部の主要な研究課題と概要

○栽培部

課題名：青森ブランド野菜販売力強化のための新作型開発（県交付金）

青森県のブランド品目であるニンニクについて、栽培・貯蔵における品質低下要因を解明し、珠芽などを利用した新しい栽培法を開発する。また、新しいブランドになる可能性を持つ夏秋期のイチゴについて、四季成り性品種の栽培特性や温度特性を解明する試験を実施する。

課題名：ナガイモ産地強化のための高品質栽培技術の確立（県交付金）

野菜研究所で、生長点培養によるウイルスフリー株の中から選抜され、配布されている系統「園試系6」について、施肥反応を把握し、多収で高品質な栽培方法を確立する。

課題名：ナガイモ栽培の革新的技術開発（県重点事業）

青森県における支柱の高さは普通180cm前後であるが、北海道では240cm程度の高支柱栽培が行われている。高支柱とすることで畦間や株間を狭めることができれば、高収量が期待できることから、高支柱栽培の収量への影響と作業性などを総合して、実用性を評価する。

課題名：涼しい夏を活かす！国産夏秋イチゴ安定多収技術の開発・実証（農林水産省研究資金；農林水産業・食品産業技術研究推進事業）

良食味で有望なイチゴ品種「なつあかり」について、電照によって長日条件とすることで、花芽を誘導し、収量の向上を目指す。また、長日処理に用いる光源として、白熱電球より消費電力が少なく長持ちする蛍光灯やLEDなどの有効性を検証する。

課題名：「冬の農業」の広域的取組による産地力の強化（県重点事業）

ハウレンソウの寒締め栽培において、地温を上げずに土の付着を防ぐ方法として利用されている白黒ダブルマルチの寒締め効果（糖度上昇等）への影響を調査する。また、寒締め菜の品質低下を抑える貯蔵方法について試験を行う。ニンジン積雪下で食味が向上する野菜であるが、低温下での糖度やビタミン類の変化を調査する。

課題名：土づくり効果の実証（県重点事業）

ミネラル成分の高いゴボウを生産して有利栽培につなげることを目的に、栽培土壌にミネラル資材を施用して、ゴボウ品質への影響を調査する。

○品種開発部

課題名：特産野菜優良品種の開発（県交付金）

本県の特産野菜であるナガイモ、ニンニクについて、在来系統からの選抜、放射線照射、交雑等により、収量や外観品質が優れる品種や、内部品質に特徴のある品種を育成する。また、転作作物として有望なエダマメについて、既存品種間の交配により食味の良い新品種を育成する。さらに、今年度からは国独法、東北各県との共同研究により、イチゴの品種育成にも取り組む。

課題名：特産野菜原原種維持増殖事業（県交付金）

ナガイモ、ニンニクのウイルスフリー種苗を維持、増殖し、原原種として供給することにより、JAや生産者の行う優良種苗確保の取り組みを支援して、これらの特産野菜の生産振興を図る。

課題名：ソバ及びナタネの育成系統特性評価（国独法受託）

国独法が育成したソバ及びナタネの系統について、本県における地域適応性を検討する。ソバについては、良質、多収で、熟期の揃った系統、ナタネについては、多収で、油や搾油粕に有害成分を含まない系統を選定する。

○病虫害部

課題名：イモグサレセンチュウ汚染軽度ニンニク圃場における被害軽減技術の開発（県交付金）

本県特産野菜のニンニクは、イモグサレセンチュウによる被害が問題となっている。そこで、クロルピクリン剤などの土壌くん蒸消毒により被害を効果的に抑制できるような汚染軽度な圃場向けに、簡便な処理により同程度の効果を発揮する防除技術を開発する。

課題名：特産野菜の気象変動に対応した青森型総合病虫害防除技術の開発（県交付金）

本県ではニンニクのほか、夏秋イチゴの作付けも拡大している。夏秋イチゴでは要防除水準に基づく生物的・物理的防除を組み入れた総合的病虫害防除技術を開発する。ニンニクでは、ウイルスフリー種苗の導入を行っているにもかかわらず、ウイルス病により激しいモザイク症状を示す株が増加している。そこで、弱毒ウイルスによる感染低減技術を開発する。

課題名：野菜の病害虫防除試験（県交付金）

近年、問題となっているイチゴの苗に発生する病害について迅速で正確な診断技術を開発する。土壌くん蒸消毒に代わる根菜類の土壌病害やネコブセンチュウ類の防除法を検討し、またニンニクで突発的に大発生する病害の発生要因を解明して、防除対策を構築する。ニンニクのチューリップサビダニやゴボウのヒョウタンゾウムシなどの害虫の発生要因や発生生態を解明し、効果的な害虫防除技術を開発する。

トピックス

ながいも優良種苗母本選抜検討会

5月1日、ながいも母本の実物を展示しながら種苗に関する検討会を行いました。当日は、県、JA全農あおもり、各農協から計27人の出席がありました。

ながいも母本の選抜や増殖について説明した後、配布系統である「園試系6」の特性やウイルスの問題等について討議が行われました。昨年、生産現場ではコブいもの発生による品質低下が目立ったこと等が報告され、対策が話し合われました。



にんにく品質向上技術研修会

5月8日、県、JA全農あおもり、農協営農指導員連絡協議会の主催により、計61名が参加して開催されました。前半では、東北農業研究センターと当研究所の共同研究により最近取りまとめられた「ニンニク周年供給のための収穫後処理マニュアル」について内容を紹介しました。

後半では、長期貯蔵にんにくの品質と乾燥方法に関して、実際のサンプルを用いた調査を行いました。調査では、サンプルの皮をむき、りん片の様子について観察を行い、乾燥、貯蔵条件との関連について考察しました。



もち小麦商品開発研究会

「もち小麦商品開発研究会」は、青森県立保健大学藤田修三教授を会長として平成21年に設立された研究会ですが、本年度の第1回研究会が5月27日に当研究所で行われ、参画企業等から28名の参加がありました。

当日は、経過報告や研究成果の紹介の後、もち性小麦を使用した新商品として、田酒餅、おかき、煎餅、あんころ餅、粒おにぎりのお披露目と試食が行われました。



もち性小麦を使用した新商品

にんにく高品質安定生産技術研修会

6月14日、当研究所において、県、JA全農あおもり、各農協から計46名の参加を得て開催されました。

最初に、作況試験圃場を見ながら、県農林水産政策課の野呂主幹が、本年のにんにく生育状況と今後の管理について概説しました。その後、圃場や施設を廻りながら、原原種ハウスの生育状況、乾燥技術と乾燥後の管理、病害および生育障害の発生要因と対策等について研修を行いました。



人の動き

1. 退職者・転出者（平成25年3月31日付）

職名	氏名	新所属・職
所長	横山 裕正	地方独立行政法人青森県産業技術センター本部事務局 企画経営室総括企画経営監
研究管理員	内藤 誠	地方独立行政法人青森県産業技術センターりんご研究所 県南果樹部研究管理員
主査	柏崎 綾子	営農大学校主幹
技能専門員	田中 良雄	再雇用期間満了

2. 転入者・昇任者（平成25年4月1日付）

職名	氏名	旧所属・職
所長 (昇任)	岩瀬 利己	地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所 総括研究管理員
総括研究管理員 (昇任)	庭田 英子	地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所 研究管理員
総括研究管理員 (昇任)	山下 一夫	地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所 病虫部長
主任研究員	對馬 由記子	農林総合研究所主任研究員
主査	河村 里子	三八地域県民局地域健康福祉部福祉総室主査
研究員	加賀 友紀子	新採用